

債券・為替 ウィークリーレポート



カナダ



ブラジル



メキシコ



オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー






南アフリカ



インドネシア



インド

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		2/21 （2/14との比較）	2/21 （2/14との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
カナダ 	AAA	1.28% （▲0.08）	84.39円 （+1.87%）	+1.7% 2019年3Q	1.75%	発表された製造業売上高および小売売上高が市場予想を下回った一方、CPI（消費者物価指数）は市場予想を上回る結果。原油価格の上昇もあり、カナダドルは対円で上昇。国債利回りは低下。	経常収支やGDP（国内総生産）などが発表予定。3月4日の金融政策決定会合を控え、利下げの可能性について市場の思惑が交錯する中、債券・為替市場はともに一進一退の展開が続くと予想。
	Aaa	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	→ 据え置き局面		
ブラジル 	BB-	5.26% （+0.03）	25.41円 （▲0.50%）	+1.2% 2019年3Q	4.25%	発表された消費者信頼感指数は前月比悪化。エコノミストが2020年の予想GDP成長率を引き下げたこと、レアルの下落トレンドに対し中銀の為替介入がなかったことなどをを受け、国債利回りは上昇。レアルは対円で下落。	登録雇用創出合計や全国失業率などが発表予定。新型コロナウイルスの感染拡大により中国経済の先行き懸念が高まり、世界的に長期金利が低下する中、債券・為替市場はともに一進一退の展開が続くと予想。
	Ba2	→ 金利横ばい	→	→ 景気安定	↓ 利下げ局面		
メキシコ 	A-	6.45% （▲0.07）	5.90円 （▲0.33%）	-0.3% 2019年4Q	7.00%	特に注目すべき経済指標の発表はなし。意見交換を実施した外国企業幹部が同国経済の先行きを楽観視しているとの大統領発言があったものの、メキシコペソは対円で下落。国債利回りは低下。	GDPや小売売上高、失業率などが発表予定。新型コロナウイルスの影響から目が離せないものの、USMCA（米国・メキシコ・カナダ協定）の進展への期待が続くこともあり、メキシコペソは強含みの展開を予想。
	A3	↓ 金利低下	→	→ 景気安定	↓ 利下げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる自国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（カナダ：10年、ブラジル：4年、メキシコ：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
















※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。

※政策金利については、カナダ：翌日物貸出金利、ブラジル：Selicレート、メキシコ：翌日物金利を表示。
















※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		2/21 （2/14との比較）	2/21 （2/14との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
オーストラリア 	AAA	0.94% （▲0.11）	73.94円 （+0.35%）	+1.7% 2019年3Q	0.75%	発表された景気先行指数は前月比横ばい、失業率は市場予想比で悪化する内容。中銀が政策金利決定会合で低金利環境の継続見通しを示したことや追加利下げが検討されたことを受け、国債利回りは低下。豪ドルは対円で上昇。	特に注目すべき経済指標の発表はない。新型肺炎の感染拡大により米国経済の先行き懸念が高まり、世界的に長期金利が低下する中、債券・為替市場はともに一進一退の展開が続くと予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
ニュージーランド 	AA+	1.25% （▲0.11）	70.86円 （+0.26%）	+2.3% 2019年3Q	1.00%	発表された住宅売上高は前年同期比プラスは維持したものの、伸び率は前月に比べ鈍化する内容。経済的に繋がりの深い中国で政策金利引き下げが実施される中、ニュージーランドドルは対円で上昇。国債利回りは低下。	小売売上高や貿易収支、消費者信頼感指数などが発表予定。新型肺炎の発生源である中国における感染拡大が頭打ちとなるかどうかに注目が集まる中、債券・為替市場はともに一進一退の展開を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
ノルウェー 	AAA	1.36% （▲0.04）	12.03円 （+1.36%）	+1.8% 2019年4Q	1.50%	発表された貿易収支は前月比で悪化する内容。G20（主要20カ国・地域）財務相・中銀総裁会議では明確な成果が得られない結果。原油価格の上昇もあり、ノルウェークローネは対円で上昇。国債利回りは低下。	小売売上高や失業率などが発表予定。新型肺炎の世界的な影響拡大への懸念が続く中、ノルウェークローネは相対的に堅調な推移を予想。債券市場は一進一退の展開を予想。
	Aaa	 金利横ばい		 景気拡大	 据え置き局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

- ※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。
- ※2 10年国債利回りを表示。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。
- ※3 経済成長率については、前年同期比を表示。
- ※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。
- ※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。
- ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。
- ※政策金利については、オーストラリア：キャッシュレート、ニュージーランド：オフィシャル・キャッシュレート、ノルウェー：デポジットレートを表示。

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

国（地域）	格付 （※1）	債券（※2）	為替（対円）	経済成長率	政策金利	先週の動向	今週の見通し
		2/21 （2/14との比較）	2/21 （2/14との比較）	前年比 （※3）	先週末		
		今後の見通し （※4）	今後の見通し （※5）	景気の方向性 （※6）	方向性 （※7）		
南アフリカ 	BB+	6.48% （▲0.16）	7.43円 （+0.99%）	+0.1% 2019年3Q	6.25%	発表されたCPIの伸びは前月から加速したものの、市場予想を下回る内容。13日に発表された施政方針演説について、具体的内容に欠けるとの指摘が続く中、国債利回りは低下。ランドは対円で上昇。	財政収支や貿易収支などが発表予定。26日に予定されている2020年予算案において、財政健全化の方向性が示されるかどうか注目が集まる中、債券・為替市場ともにやや変動幅の大きい展開を予想。
	Baa3	 金利横ばい		 景気停滞	 利下げ局面		
インドネシア 	BBB	5.68% （▲0.15）	0.81円 （+0.91%）	+5.0% 2019年4Q	4.75%	発表された貿易収支は輸出の減少により悪化する内容。中銀は新型コロナウイルスの拡大を受け、予防的な措置として0.25%の利下げを実施。市場予想通りではあったものの、インドネシアルピアは対円で上昇。国債利回りは低下。	消費者信頼感指数などが発表予定。同国に新型コロナウイルスの感染が広がるかどうか、また新型コロナウイルスの発生源である中国における感染拡大が頭打ちとなるかどうか注目が集まる中、債券・為替市場はともに一進一退の展開を予想。
	Baa2	 金利横ばい		 景気安定	 利下げ局面		
インド 	BBB-	6.22% （+0.04）	1.56円 （+1.41%）	+4.5% 2019年3Q	5.15%	特に注目すべき経済指標の発表はなし。G20で目立った成果が得られず、一方で新型コロナウイルスの世界的拡大が続いた環境下、国債利回りは上昇。インドルピーは対円で上昇。	GDPが発表予定であるほか、年間のGDP予想も発表予定。同国での新型コロナウイルスの感染拡大が止められるかどうか注目が集まる中、債券・為替市場はともに一進一退の展開を予想。
	Baa2	 金利横ばい		 景気回復	 利下げ局面		

出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※1 格付は上段がS&P、下段がMoody'sによる本国通貨建て長期債格付を表示。

※2 国債利回りを表示（南アフリカ：3年、インドネシア：5年、インド：5年）。債券については変化幅、為替については騰落率を表示。

※3 経済成長率については、前年同期比を表示。

※4、5 今後の見通しについては、今後1カ月のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。為替の見通しについては、現地通貨高（円安）を上向き、現地通貨安（円高）を下向き、横ばいを横方向の矢印で表示。

※6、7 方向性については、今後1年のアセットマネジメントOneの見通しを矢印で表示。

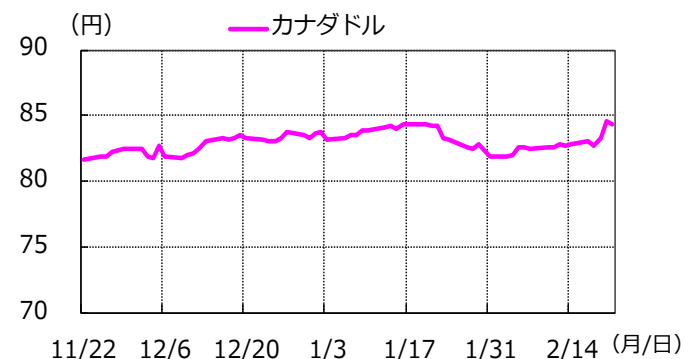
※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。

※政策金利については、南アフリカ：レポレート、インドネシア：7日物リバースレポ金利、インド：レポレートを表示。

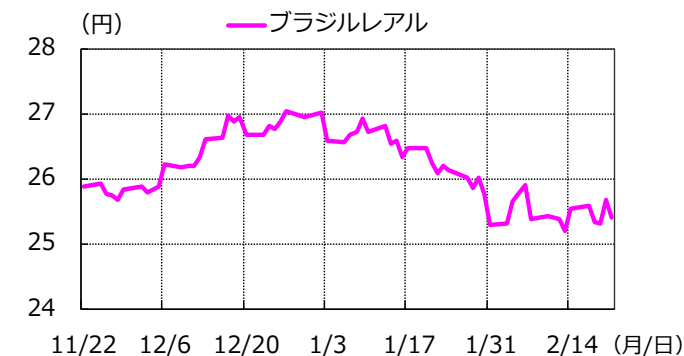
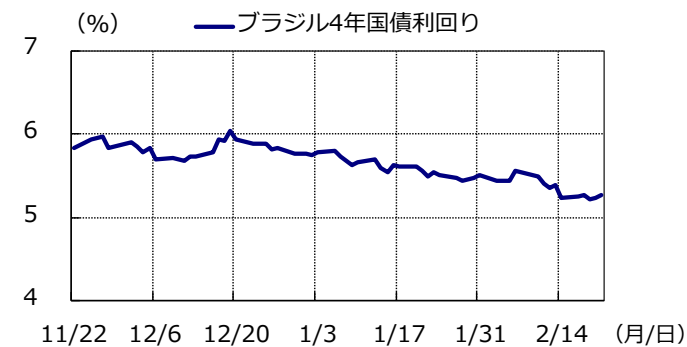
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/11/22~2020/2/21

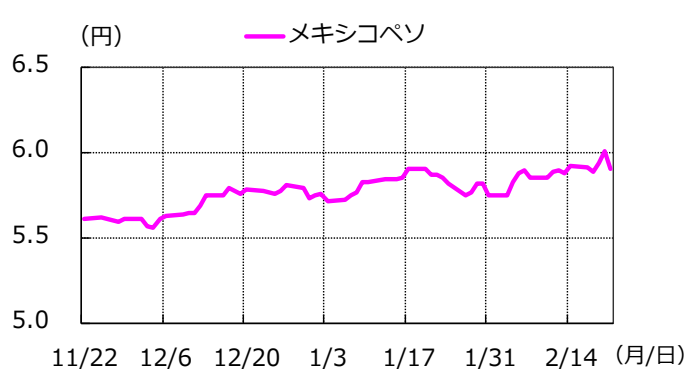
カナダ



ブラジル



メキシコ

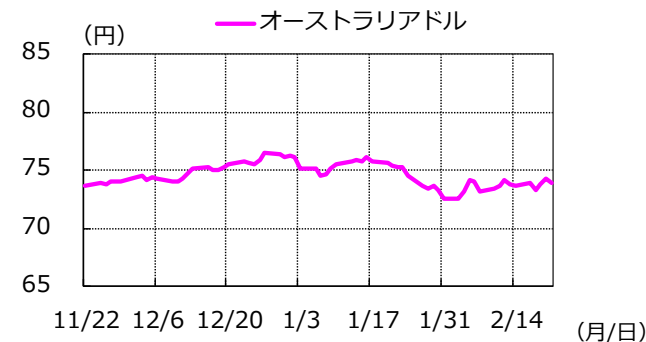
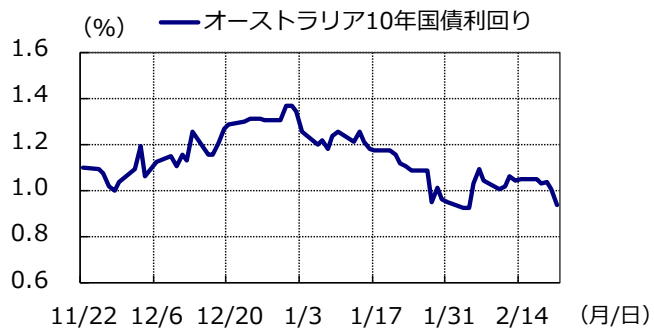


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

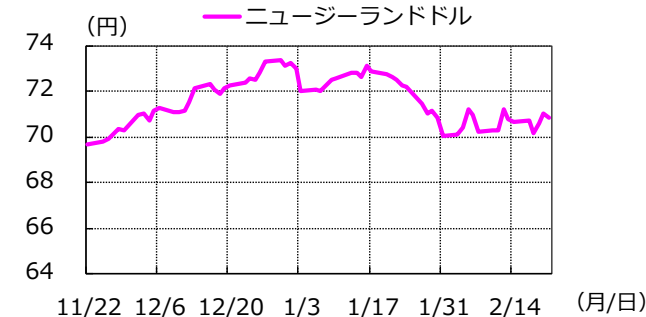
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/11/22~2020/2/21

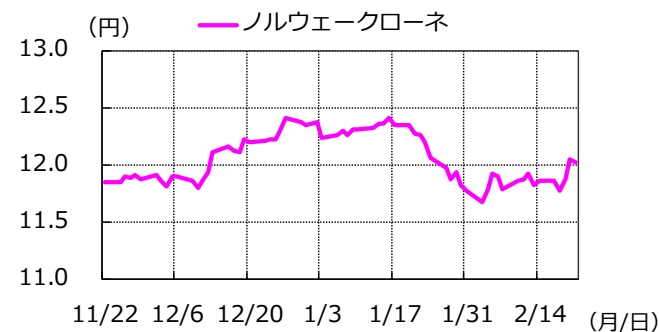
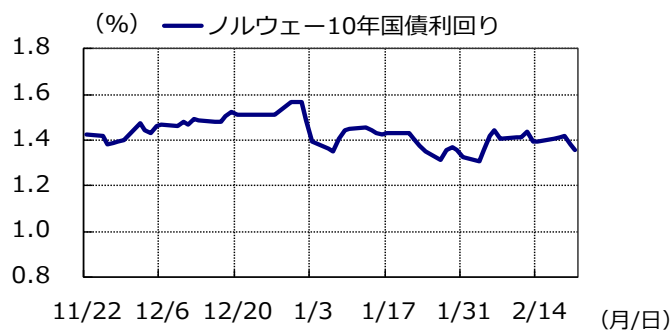
オーストラリア



ニュージーランド



ノルウェー

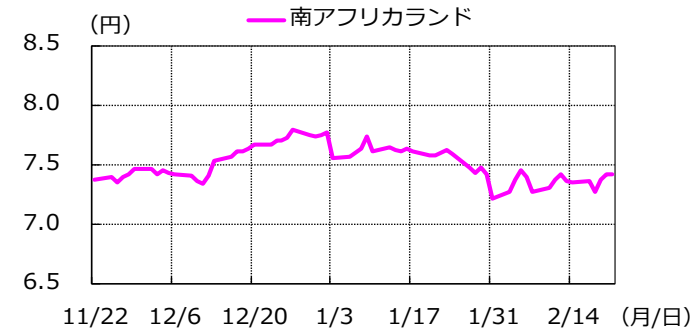
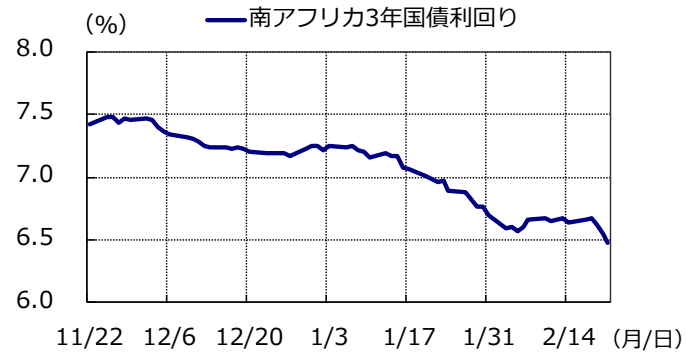


※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバークのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

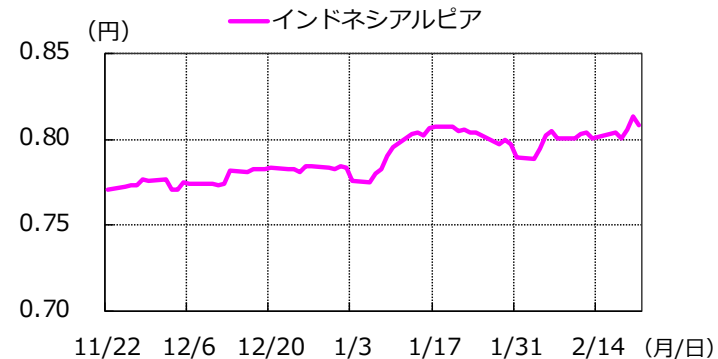
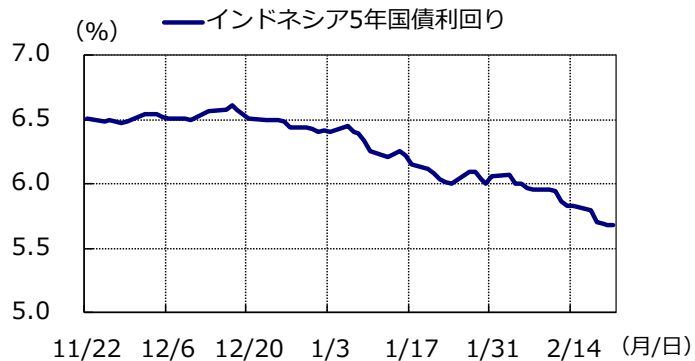
※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

期間：2019/11/22~2020/2/21

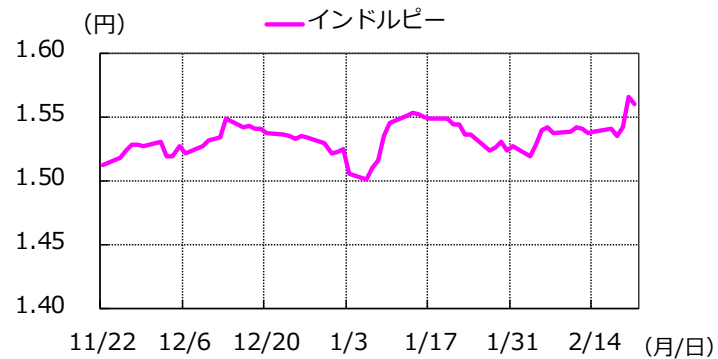
南アフリカ



インドネシア



インド



※インドネシアルピアは100通貨単位あたりの値。 ※為替レートについてはいずれもNY終値を表示。出所：ブルームバーグのデータ等をもとにアセットマネジメントOne作成

※上記は過去のデータであり、将来の市場動向を示唆、保証するものではありません。
※巻末の「投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項」を必ずお読み下さい。

投資信託に係るリスクと費用およびご注意事項

【投資信託に係るリスクと費用】

● 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式、債券および不動産投資信託証券（リート）などの値動きのある有価証券等（外貨建資産には為替リスクもあります。）に投資をしますので、市場環境、組入有価証券の発行者に係る信用状況等の変化により基準価額は変動します。このため、投資者の皆さまの投資元本は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元本を割り込むことがあります。ファンドの運用による損益はすべて投資者の皆さまに帰属します。また、投資信託は預貯金とは異なります。

● 投資信託に係る費用について

[ご投資いただくお客さまには以下の費用をご負担いただきます。]

■ お客さまが直接的に負担する費用

購入時手数料：上限3.85%（税込）

換金時手数料：換金の価額の水準等により変動する場合がありますため、あらかじめ上限の料率等を示すことができません。

信託財産留保額：上限0.5%

■ お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

運用管理費用（信託報酬）：上限 年率2.09%（税込）

※上記は基本的な料率の状況を示したものであり、成功報酬制を採用するファンドについては、成功報酬額の加算によってご負担いただく費用が上記の上限を超過する場合があります。成功報酬額は基準価額の水準等により変動するため、あらかじめ上限の額等を示すことができません。

その他費用・手数料：上記以外に保有期間等に応じてご負担いただく費用があります。投資信託説明書（交付目論見書）等でご確認ください。その他費用・手数料については定期的に見直されるものや売買条件等により異なるため、あらかじめ当該費用（上限額等を含む）を表示することはできません。

※手数料等の合計額については、購入金額や保有期間等に応じて異なりますので、あらかじめ表示することはできません。

※上記に記載しているリスクや費用項目につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、アセットマネジメントOne株式会社が運用するすべての投資信託のうち、徴収するそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。

※投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国が異なることから、リスクの内容や性質、費用が異なります。投資信託をお申し込みの際は、販売会社から投資信託説明書（交付目論見書）をあらかじめ、または同時にお渡ししますので、必ずお受け取りになり、内容をよくお読みいただきご確認のうえ、お客さまご自身が投資に関してご判断ください。

※税法が改正された場合等には、税込手数料等が変更となることがあります。

【ご注意事項】

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が作成したものです。

● 当資料は、情報提供を目的とするものであり、投資家に対する投資勧誘を目的とするものではありません。

● 当資料は、アセットマネジメントOne株式会社が信頼できると判断したデータにより作成しておりますが、その内容の完全性、正確性について、同社が保証するものではありません。また掲載データは過去の実績であり、将来の運用成果を保証するものではありません。

● 当資料における内容は作成時点のものであり、今後予告なく変更される場合があります。

● 投資信託は、

1. 預金等や保険契約ではありません。また、預金保険機構および保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。加えて、証券会社を通して購入していない場合には投資者保護基金の対象ではありません。

2. 購入金額について元本保証および利回り保証のいずれもありません。

3. 投資した資産の価値が減少して購入金額を下回る場合がありますが、これによる損失は購入者が負担することとなります。